発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033 7140 番
編集兼発行人　北岡　隆

本号は、二・三面に十二月八日の指名退職勧告状返上大会のルポ「怒りの焔」を特集しました。

会社・指名解雇を強行
不当首切りを粉砕
ドレイ労働への復活許すな

十一日会社は、一・二七七名にたいして「指名解雇状」をだしてきた。もちろんそれはさきにだされた勧告状であきらかなように「活動家」を根こそぎにし、組織破かいをネラう悪質な、不当きわまる攻撃である。しかもその解雇状は〝十六日以降は自動的解雇になるので出社するにはおよばない〟というきわめて一方的な内容のものである。さらに会社は会社は十一日いつせいに一、二七七名にたいして不当な「指名解雇状」をだしてきたが、さきにだした「指名退職勧告状」を八日の返上決起大会にあつまつた三万の怒りの焔でもやしつくし、クビ切り撤回まで断固闘いぬく決意にもえていただけに、まつたく動揺はなく、つぎつぎと各地域分会毎に回収、支部毎に集約されていつた。もちろん指名解雇状は、さきの勧告状がそうであつたとおなじく活動家を総なめにし、組合のイキの根をとめようとする攻撃であり、これと対決して闘う態勢はますます高まりをましてきた。指名解雇強行にさいして十一日だされた指示第七号は次のとおりである。

指名解雇強行に際しての対策

会社側が今明日中に一、二七七名の指名解雇通告を郵送することが明らかとなつた。

しかも通告内容には極めて一方的に「十六日以降は自動的解雇で出社におよばず」と明記されている模様であり、その上、ロツク・アウト準備なども着々と進め、指名解雇をめぐる各種の挑発を仕組んでくることも明らかである。

われわれは個々の挑発をハネ返しロツク・アウトの準備や挑発・分裂策動をもたくらんでいる模様である。われわれの闘いは、いよいよ本番闘争にはいり、全国の仇く仲間からのはげましや、支援もそのあつみをましてきた。勝利の確信を胸に、デマや挑発に乗ぜられず、八日山の上クラブ前で勧告状を燃やしつくした怒りの火をもやしつづけ、団結を守つて妥協なき闘いの決意をあらたにしよう。

「組織の力」で、総評・炭労・三鉱連の統一闘争と固く結びついた「ゼロ」の闘いに突入するにあたり左記の通り指示する。

記

一、指名解雇通告書を郵送された場合は、これを受領し直ちに地域分会長に届け出よ。

一、十二月十二日（土）
各職場分会毎に通告実態を集約し職場における意志統一を再確立せよ。

一、十三日（日）
各地域分会毎に「集約大会」を開催し、全体闘争の意志統一を更に強化せよ。

一、十四日（月）
各職場分会毎に支部闘争委員長の指示による抗議を行え。

一、その他具体的細部事項については支部闘争委員長の指示に従え。

以上

大量にオルグ来山

指名解雇状の内容は「十六日以降は自動的に解雇になるので出社するにおよばない」という一方的なものであり、さらに会社はロツク・アウトの準備をすすめている様子でもある。また悪質な挑発や組織分裂の攻撃もかけてくるだろうし、個人的な行動は十分つつしんで、団結を守つて闘う必要がある。退職勧告のあと指名解雇強行と前後して三池闘争を核とし、三池をつつんで闘う三鉱連・炭労・総評の統一共闘態勢は異常なあつみをくわえて発展している。

三鉱連河野事務局長をはじめ、美唄、砂川、芦別、山野、田川からもオルグが来山し、また全国各単産や各地からのおびただしい激の激励の電報・手紙やよせ書きがよせられ、十四日には四百数十名の炭労をはじめ、各単産のオルグが結集することになつている。

一方、三池からも関東地区二十名関西地区二十五名、北海道地区八名、常磐地区二名、九州地区六名合計六十一名が、三池の闘いの実情を全国に訴え、全労働者の共闘態勢を一層かたいものにするためのオルグをおこなうことになつた

（上）闘う決意を燃やして労仂歌合唱
（下）みなぎる闘魂を胸に真剣な討議

前進大会宣言

いま、おれたちの上におおいかぶさつている暗雲は六人に一人のクビ切り職場活動の禁圧・賃金不払いというむごいものである。これは、労仂者とその家族にとつて一人ひとりの生活と権利とを、その土台からひつくり返す資本の独善である。

しかも「組合活動家」を「生産阻害者」にスリかえ、指名退職勧告一・四七一名のうち、執行委員・政治局員・職場、地域分会長・委員・代議員など「組合役職」につくものだけで半数六〇〇名を越えるという事実で証明されたように、敵の攻撃はまさに、おれたちの組合運動のイキの根をとめるという野ばんきわまる労仂者ごろしであり、どれい労仂への復活である。

人間が自由を拡大し、仂らく者が権利を高めるということは近代の歴史が示す民主々義の大道であり、その基盤は労仂者の団結であり労仂組合運動である。

この歴史的な発展を血迷つた資本家どもは、いまこなどなにするための攻撃をおれたちにかけている。

そしてこの独占資本の野望は、岸政府がアメリカと結託し資本家のみの利益を代弁する「安保改定」の強行にその政治的表現を露骨にしてあますところがない。

しかし、おれたちは総評・炭労・三鉱連の仲間たちだけでなく、日本中の仂く仲間たちから支えられ励まされている。

おれたちより苦しいたたかいをやつているたくさんの仲間たちがカンパを送り、餅を届けてくれるという。

おれたちは、みんなで守つて来た三鉱労組の伝統をさらに輝やかすため、昨八日山ノ上で焼きすてた「勧告状」の赤いほのほを一人ひとりの胸に燃やしつづけ、おれたちの上におおいかぶさつた黒雲のすぐその上にあるにじ色の光明を確信しみんな団結一致でたたかい抜こう!!

頑張ろう!!

勝ち抜こう!!

右宣言する。

一九五九年一二月九日

三池炭鉱労仂組合
臨時総会

団結一致で頑張ろう
決意かためた臨時総会

会社の露骨な野望にみちた〝退職勧告状〟を会社幹部のたてこもる山ノ山クラブ前で三万の闘魂と燃える怒りでやきつくしたその翌日、九日午前九時から大牟田市民会館で三鉱労組臨時大会をひらいた。大会は組織破壊のクビ切り合理化を粉砕し、安保改定を阻止する不動の態勢確立をはかり、製作所離脱の組織分離を主導した要切り幹部竹原進也ほか七名、および平島敏治ほか三名。企反闘争の方針にそむいて一方的な会社の希望退職募集に応じて、闘争に重大な影響をあたえた帳佐義雄ほか一〇三名の除名を決定した。

また、今後の闘争激化にそなえる緊急事態対策として総会附議事項の中央委員会附託をきめ、不当首切りに対決して団結一致で闘いぬく大会宣言を採択した

午前九時開会、組合歌合唱のあと宮川組合長がたつて、

「われわれは全力をあげて、この闘いにとりくんでいる。いままでの苦しい闘いで勝ちとつてきた成果のすべてと組織の運命をかけた闘いである。

もちろん執行部は全能力をふりしぼつて闘つており、確信をもつて闘いをすすめている。もしこの闘いにやぶれるようなことがあれば執行部は総辞職する決意で闘つている。勝利を確信して闘いぬくことを誓います」

と大要以上のような力強い挨拶をおこなつた。

つづいてメツセージにうつり、三鉱連河野事務局長をはじめ、はるばる化粧道から海をわたつてオルグにかけつけた北三連の代表や山野、田川の代表らが三鉱連の団結を表明し、大地評・荒地評代表らからは力強い連帯の挨拶がおくられた。そのあと九大向坂教授、総評派遣の弁護団、社会党、共産党代表らからの挨拶をうけて議題にはいつた。

はじめに、これまでの闘争経過とこれからの態勢づくりについて灰原書記長から報告された。そして指名解雇の強行を目前にして、いよいよ本格的化した闘争にたいして、敵の挑発や揺かし、世論をよそうデマ・中傷なども倍加されるだろうが、異常なあつみと幅広い力で三池をつつみ、みんなで闘う総評全体の姿勢と今次闘争の意義をかんがえ、みんなで助けあいながら、クビ切り合理化の白紙撤回まで労働者階級の団結と友愛の下に断固闘いぬくことを確認し、不動の闘争態勢確立をちかいあつたつづいて、企業整備をめぐるはげしい闘いの決定的な重要段階に機関の決定をふみにじり、敵の分裂策動に乗ぜられ、製作支部離脱という悪質な組織分裂行為を主導した元製作支部長竹原進也ほか七名製作支部の離脱にともなつて、一旦は三鉱労組にとどまつた二十二名と同志的なつながりをもつて闘うことを言明し、本部役員としての業務に当りながら、ついに「辞任届」を提出、竹原進也ら要切り幹部と歩調をあわせて離脱行為をとつた元本部役員平島敏治ほか三名。組織の運命をかけて闘う方針に反して、会社の募集する希望退職に応じて闘争に重大な影響をあたえた帳佐義雄ほか一〇三名の処分について、懲戒委員会の除名裁定による総会の除名決定をおこなつた。

また、こんどの闘争激化にそなえる緊急事態対策として、総会附議事項の中央委員会附託を決定し、大会スローガン・大会宣言を採択決定して午後二時すぎに終会した

俺とお前で守り抜く
第九次統一行動〝タイマツ〟デモ
首と権利は

十二月十日の全国第九次（拠点第六時）統一行動は、大牟田地区では午後五時から約一万五千名が笹林公園に結集して「安保改定阻止、炭労首切り反対、失業反対大牟田地区総決起集会」をひらき、集会ご三隊に分かれて〝タイマツデモ〟をおこなつた。

この日、集会開始五時ごろには、各単産組合員、主婦は鉱業婦でぞくぞくと集合、暮れやすい冬の日は、うす墨をながしたように夜のとばりを降ろしはじめる。

丸山事務局次長の挨拶で集会の幕をあけ、議長団選出、川口共闘会議議長挨拶にひきつづき、浦本事務局長から経過報告がおこなわれた。

三鉱労組から「三鉱企反闘争に関する決意」が宮川組合長から、力強く表明されるや、これに答えて大会場は、激励が巻われた。

このあと、同じくILO条約批准で果敢に闘つている全逓労組からILO条約批准、勤評反対を敷組から、それぞれ決意が表明された

「今日は人の身、明日はわが身、三鉱の首切りを皆んなの力ではね返そう」など四つのスローガンが万雷の拍手の中でつぎつぎと採択され、地区集会の雰囲気は、最高調にもり上がつていつた。

大会宣言、労働歌合唱ののち、地区総決起大会としては、はじめての〝タイマツ〟デモが開始された会場にしかけられた花火の合図とともに、〝タイマツ〟デモは一斉に行動を開始した。

タイマツは十名に一本の割で約二千本がともされ、タイマツのほか三鉱労組では各支部が趣向をこらして、思い思いに大ボンボリをつくり、これらのタイマツ、ボンボリ、提灯の灯が交錯して市内メインストリートは、一瞬火の海と化した感があつた。

デモ隊は二隊に分かれ、一隊は櫛葉前から築町通りを行進、別の一隊は、笹林―五月橋―築町通りを行進、駅前通りではこの二隊が交錯して、火の渦巻となり、労働者の怒りが火と燃えて、行進がつづけられた。